

ヨシでびわ湖を守る ネットワーク通信

11

VOL.



夏真っ盛り。この季節ヨシ原では、成長したヨシが3mを越える背丈になっています。一歩足を踏み入ると別世界の景色が広がっています。

2011.7月末 西の湖のヨシ原

びわ湖の内湖はどんなところでしょうか。びわ湖の平均水深44mと比べると非常に浅く最も深いところでも3mまでで、平均すると約1.8mの水深だそうです。びわ湖とは水系でつながっており、びわ湖の面積の0.6%にすぎない内湖には、ヨシ帯の6割が分布し、まさに内湖はヨシ帯が広がる水域といえます。浅い水域に生息する魚にとってはヨシ帯は格好の繁殖の場となり、びわ湖の在来魚の半数以上の魚が内湖を利用しているそうです。また、貴重植物が生育する湿地帯でもあり、生き物にとってびわ湖周辺の内湖は命を育む大切な地域となっています。

まめ
ちしき

びわ湖を知る ■ 問題

びわ湖に棲む固有種で水草を食べる魚はどれでしょうか。

- ①ビワマス
- ②イサザ
- ③ビワヒガイ
- ④ワタカ

特集 1ページ

滋賀植物同好会
大谷 一弘 様より

琵琶湖周辺でみられる海浜植物

【古い歴史と日本一を誇る大きさ】

琵琶湖はバイカル湖、カスピ海に次いで世界で三番目に古い歴史があります。今から約400万年前、三重県伊賀上野地方で産声をあげた古琵琶湖はやがて北へ移動し、現在の位置に約40万年前に辿り着いたといわれています。琵琶湖は日本最大の淡水湖で、四方を1,000m級の山で囲まれた近江盆地の真ん中に満々と水を湛えています。

【琵琶湖沿岸の植生景観】

琵琶湖の周辺は内湖を除くと約220kmの長さには達します。都市化の進んだ南湖周辺など人工湖岸となっているところも少なくありませんが、奥琵琶湖や長命寺山など山が湖岸まで迫っている岩礫型湖岸ではツルヨシーハンノキ群落、河川のデルタ地帯など砂泥型湖岸ではヨシーヤナギ群落(ヨシ原)、今津浜など砂質型湖岸(砂浜)ではギョウギシバークロマツ群落などがそれぞれの立地を代表する自然植生の景観です。

【砂浜にみられる海浜植物】

ところで、「白砂青松」の景観が美しい琵琶湖の砂浜には、本来は海岸砂丘植生の構成種であるハマヒルガオ、タチスズシロソウ、ハマエンドウ、ハマゴウなどの貴重な海浜植物が自生しています。このうち、生育場所や個体数が比較的多いハマヒルガオを除いて、「滋賀県レッドデータブック2010年版」では、ハマエンドウは絶滅危惧種、ハマゴウは絶滅危機増大種、タチスズシロソウは希少種にそれぞれ選定されています。

なぜ、琵琶湖の砂浜に海浜植物が生育しているのか。その理由としては、

- ① 広い琵琶湖の存在が気候や砂浜など海岸と類似した立地条件をもたらし、比較的新しい時期に種子散布などにより分布した。
- ② かつて古琵琶湖だった時代には海に近く、その頃に移入した植物が隔離(陸封)され、今日まで遺存している。

などの考えがあります。前者とすれば、遺伝的な分化の可能性が低く、後者とすれば分化の可能性が高いこととなります。



『ハマヒルガオの花』



『ハマヒルガオの保全地』



『タチスズシロソウの花と実』



『タチスズシロソウの群落』

特集 2ページ



『ハマゴウの花』



『ハマゴウの群落』



『ハマゴウの保全地』

【最近のDNA解析結果より】

琵琶湖周辺を含む日本各地のハマヒルガオの葉緑体を用いてDNA解析を行った瀬戸口浩彰准教授(京都大学大学院人間・環境学研究科)の研究成果によれば、琵琶湖周辺に生育するハマヒルガオは、琵琶湖の長い歴史の中で海から入り込み、海のものとは分かれて内陸部に封じ込められたまま独自に進化しつつあることが明らかにされました。生理的、生態的にも海岸型と琵琶湖型では葉の大きさや厚さ、色、ストレス耐性などが異なり、琵琶湖型は葉が小さくて薄く、濃い緑色で、耐性が弱いことなどもわかってきました。

ハマヒルガオのみならず、ハマエンドウやタチスズシロソウでも同様の結果がみられ、琵琶湖の海浜植物は琵琶湖の長い歴史とともに海から隔離されて独自に歩んできた貴重な存在であるといえます。

【貴重な海浜植物とその生育地の保全に向けて】

私たちは1986年頃、湖岸を踏査して海浜植物の分布や植生などを調べました。そして、昨年あたりから再び、海浜植物の調査を始めました。25年前と比較して気になるのは、乗り入れる車などで砂浜が荒れているところが多く、競争力の強い外来種が増加していることなどです。

個々の植物については、

- ① ハマヒルガオは保護・増殖されている地域もあり、全体的にみて分布域は広がっている。
- ② ハマゴウも保護されているが、分布域は限られ、琵琶湖の水位低下などの影響で陸生植物と競合し立地条件は悪化している。
- ③ タチスズシロソウは特に保護されていないが、分布域は湖西や湖東にまたがり、人為的攪乱によって埋土種子が発芽し大群落が出現した地域がある。
- ④ ハマエンドウは、他の陸生植物との競合等による立地条件の悪化によって分布地が減少しており、保護・増殖が急務である。

などがわかってきました。今後、私たちはとりわけ危険な水準にある「ハマエンドウとその生育地」の保全活動に力を注いでいきたいと考えています。皆様のご支援をよろしくお願いします。



『ハマエンドウの花』



『ハマエンドウの実』



『マツの根元に生育するハマエンドウ』

みんなの リエデン

リエデン情報～開発グループ

ReEDEN colours A5・スリムA6発売！

数量限定
limited

昨年7月に発売したReEDEN colours の
シリーズ新商品を8月1日(月)に数量限定で販売開始しました。

このノートは仕事も趣味も頑張る女性に使ってもらうため、
そして、開発グループのメンバーが使いたい商品！を裏コンセプトに
およそ1年かけてじっくり作り上げた自信作です。

なんといってもご紹介したいのはこの背クロス！
森にひそむ動物柄がとってもキュートなんです。

表紙は仕事でも趣味でも使いやすいデザインでシックかつ可愛い
ナチュラルカラーを使用。
女性のカバンやオフィスでの使用にピッタリなA5サイズ(5色)と休日
の持ち運びにちょうど良いスリムA6サイズ(3色)の2サイズがあります。

また、せっかくなら楽しくお使い頂けるように、と
中紙には、わたげ(A5)とつばめ(スリムA6)のワンポイントをあしら
いました。

ここで少し、このような商品を発売するに至った経緯をお話させて頂こうと
思います。

働く女性にアンケート調査を行なったところ約半数の人が仕事にA5サイズ
のノートを使用していると回答。そのうちの約半数がA6サイズ以下のノート
も併用していることが分かりました。そこで皆さんがどんなノートを使ってい
るのか調査しに販売店に見に行ってみるとA5・A6サイズのノートは、

- 1) とっても事務的なものか
- 2) 学生向きのとってもかわいいもの
- 3) 結構オトナでちょっとマニッシュ・高価なもの

がほとんど、というのが現状でした。ノートとして使用するには何ら支障はないけれど、「もっと自分にじっくり合うものを選びたい」と感じ、第4の分類“シンプルだけれど女性らしくてお手頃なもの”をReEDEN colours で実現しようとする商品
を企画しました。そのサイズ感の持つ使い勝手はそのままに……

『胸がワクワクするようなデザインの新しいReEDEN colours を是非一度お手に取ってみて下さい。』



とっってもキュートなクロス柄



ワンポイントをあしらった中紙



シンプルだからアレンジ自由自在



8種類のラインアップ (パックもあります)

ネットワーク 広場

レンゴー(株) 滋賀工場
北 智治さまより



わたしたちは、環境に優しい 段ボール製品を作っています！

わたしたちレンゴー株式会社滋賀工場は、1964年よりこの滋賀の地で、段ボール製品を作り続けてまいりました。段ボール製品は、さまざまな製品の包装材として広く使われていますが、その原料は同じ段ボールの古紙を97%以上リサイクル使用している環境にやさしい製品です。



いちごを衝撃から守る「宙吊りトレイ」



『蓬萊山で自然とのふれあい』

滋賀の地で仕事をさせていただき、また、余暇においても滋賀の自然を満喫しています。

今後も長くこの地で、お客様によるこんでいただける段ボール製品を提供しつづけるとともに、滋賀の環境保護に役立つことができるよう、小さなことひとつひとつからはじめたいと考えています。

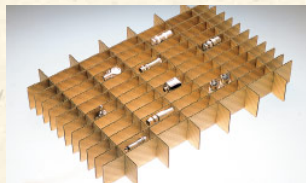


『ヨシ刈りにマ』

【はじめています環境の取り組み】

- ☆ 「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」の活動への参加
- ☆ 滋賀エコ・エコノミープロジェクト「しが炭素基金」への参加
- ☆ 今夏の関西電力管内での節電協力への取り組み

【こんなことも段ボールで……】



金属の腐食を防ぐ段ボール



伸縮可能な「自転車簡易包装」



情報発信ツールとして販売促進効果大

段ボールをはじめとするパッケージングは基本機能の「包む」「守る」に「装う」「伝える」という情報発信機能を加え、コミュニケーションツールとして進化しています。

あらゆる産業の全ての包装ニーズに対して積極的に働きかける提案型の企業集団を目指す弊社ホームページにお立ち寄り下さい。↓

<http://www.rengo.co.jp/>

琵琶湖湖底観察会に参加して

大津市柳が崎にある滋賀県琵琶湖環境科学センターで「びわ湖の日」30周年を記念して一般公開が行なわれました。

「研究発表」「館内見学」「研究展示」「琵琶湖湖底観察会」などのプログラムがあり、中でも、湖上で水中探査ロボットを使って、琵琶湖の湖底を観察する湖底観察会は貴重な体験でした。

琵琶湖湖底観察会は、環境にやさしい船“megumi”に乗り込み約3時間の体験。普段見ることの出来ない水中探査ロボットや映し出されるびわ湖の湖底を参加者みんながモニターに釘付け状態でした。

あいにく湖底の生き物に出会うことはなかったのですが、南比良沖の水深60mの琵琶湖の湖底は、光のとどかない神秘的な場所が広がっていました。



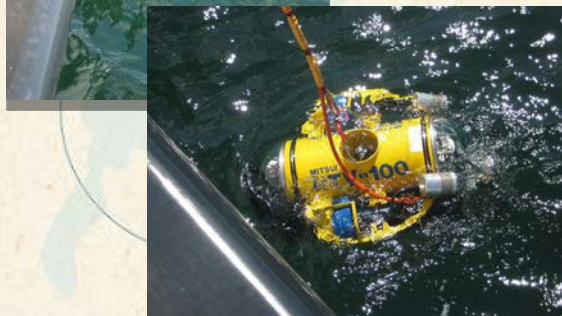
滋賀県琵琶湖環境科学研究センター



環境にやさしい船“megumi”に乗船。



水中探査ロボットが湖底に向かって潜っていきます。



モニターに映し出される湖底に興味津々です。

編集後記

暑さの厳しい季節を迎えましたが、この夏はみなさん仕事でも家庭でも節電に苦労されているのではないのでしょうか。

さて、ネットワーク通信11号いかがでしたか。新しい発見は御座いましたでしょうか。

これからも、滋賀の環境の話題やみなさまのホットな話題を掲載して参りますので、ぜひ多くの方にご覧になっていただければ幸いです。(T・O)

びわ湖を知る ■ 解答

④ ワタカ

コイ科の魚で現在、絶滅危惧種となっています。増えすぎた水草を除去する為、びわ湖では放流されているそうです。